
モンスターハンター～明日への絆～

はやたか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター～明日への絆～

【Nコード】

N1872Y

【作者名】

はやたか

【あらすじ】

この世界には人だけでなく様々なものがその生を受け、生きている。その中でも人とモンスターは狩って狩られての関係を繰り返してきた。

あるものは己が欲望の為に、あるものはただ強さだけを求めて…そんな世界で生きる一人の男、ライアン。初めは誰も寄せ付けず一人で狩りをしていたが思いがけず仲間が増えていき…！？

初執筆となります。そのため色々至らぬ部分はあるかと思いますが、

暖かく見守って下されば幸いです。

1話 一人での狩り（前書き）

初執筆となります。これからよろしくお願いします。

1話 一人での狩り

ドンドルマから少し離れた狩場、通称【密林】この狩場で今一つの戦いが繰り広げられていた。

「ふん…この程度か」そう愚痴をこぼしたのはライアン・マルクス。そしてライアンが愚痴をこぼした相手…それは空の王者リオレウス。しかし今やリオレウスは無惨な姿になっていた。尻尾は斬りとられ翼も片翼は意味を成していない状態だった。端から見ればそれは奇怪なことに写っただろう…なぜならライアンはまったく傷をつけていないのだから。王者が相手に何の手傷も負わせることなく敗北するなど許されない。そう言うかのようにリオレウスは砲喉をあげた！！

「ギャオー！！」砲喉を上げると同時に炎ブレスをライアンに向け放った！しかしライアンはこれを「ふん…」と軽くよけるとリオレウスに突撃。到着と同時に自身の武器である鬼神斬破刀を抜き放ち斬りかかった！！「グオオオ！！」斬りつけるたびにリオレウスの体を雷が迸り苦痛の悲鳴をあげるがライアンは一切の容赦をせずそのまま気刃斬りまでつなげると、目にも止まらぬ速さで斬る。斬る斬る斬る斬る…全て斬り終わった後には地に伏している空の王者の姿があつた…狩り終えたライアンは一つ息を吐くと剥ぎ取りにむかった。彼は「狩ったモンスター素材は必ず持ち帰る」と言う考え方をしていた。その考えに基づき今日もリオレウスの素材をいくつか剥ぎ取るとベースキャンプにむかって歩いていった・・・

ベースキャンプに戻るとライアンは座り込みそのままじっとしていたがやがてアイルーの操縦する気球が見えてくると立ち上がりその到着を待った。気球が到着後、モンスターの回収等をしていたアイルーを見ていた気球の船長がライアンに近づきこう言った。「ライアンはいつも一人で狩りをされているが他の誰かと組むことはしねえのか？」それに対してライアンは空を見上げて「俺は一人でい

い。一人の方が気楽だしそれに・・・」言いよんだライアンを見て船長は「ん？」と首をかしげる。その直後に予想もしない言葉が飛び込んできた「一人だと誰かが死んでも俺のせいにはならないだろ？そいつの自業自得だ」その後ライアンは一言も口を聞かなかつたが船長にはその目がどこか悲しんでいるような気がしてならなかった・・・

1話 一人での狩り（後書き）

駄文ですみません…感想、指摘などありましたらよろしく願います

2話 思わぬ出会い（前書き）

いきなり話が飛びます

2話 思わぬ出会い

無事ドンドルマについたライアンはハンターズギルドに歩を進めた。このドンドルマにはハンターが数多く在籍しておりそれら全てをまとめているのがハンターズギルドである。ギルドの扉を開け中にはいると宴会でもしていたのだろう酒と肉の匂いが鼻についた

「ライアン様クエストお疲れ様です」そう声をかけてきたのはこのギルドの受付嬢であるアイナだ。彼女に「ああ」とだけ返事をしクエストの報酬をもらうとライアンは近くにあったカウンターに腰掛け酒を注文したその後チビチビと酒を飲みそろそろ出るかと席を立った直後に事件は起こった。ガタン！！何かが倒れる音がして振り返るとそこには一人の女性を複数の男が囲んでいると言う状況だった。

「あの…すみませんが私はもう行くので」と女性が言ってるが男達は聞く耳持たずといった感じでその子をつれていこうとした…がそれは叶わなかった。つれていこうとした男が近くのテーブルに吹っ飛んだからだ「！！！」吹っ飛ばされた男はもちろん周りにいる人間にも何がおきたのかわからなかった。それはそうだろうなぜなら「誰かに吹っ飛ばされたようには見えなかった」のだから。

「てめっ…いきなり何しやがる！？」物凄い剣幕で男はまくしたてるがライアンはこれは眼中にないとでも言うように男を見て「邪魔だ、喋るな。酒が不味くなる」と言い放つと啞然としている他の人達をそのままに酒場から出て行った。

酒場から出るとライアンは深々とため息をついた「ハア…またやってしまった」あの状況では恐らく誰かが同じ事をしていただろうがさすがにやりすぎてしまったと思っていたのだ。「明日からまたギルドに顔を出しづらくなる…」今までも何度か同じ事を繰り返しており、その度に出入り禁止とまでは食らわないが周りの連中から白い目で見られていることはしっていた。「帰るか…」

そう思い自宅に足を向けた矢先に突然後ろから呼び止められた。

「すみません！」その声にライアンは「ん？」と振り向くと、先程からまれていた女性がこっちに走ってくるのが見えた。

「あの・・・先程はすみませんでした。私なんかのために・・・」
そう謝罪する彼女に対してライアンはただ一言「気にするな」とだけ言い踵を返したが、その後に続いた言葉に足を止めた。

「ライアン・マルクスさんですよ？『漆黒の迅雷』の・・・」
う遠慮がちに聞いてくる彼女に対し「ああ」とだけ返事をする、
彼女は思いもよらないことを言った。

「一緒にパーティを組んでくれませんか？」これが、ライアンの運命を変えることになるなど当時は誰も予想できなかったのであった。

・
・

2話 思わぬ出会い（後書き）

突然の急展開に持ち込んですみません…

感想、指摘などありましたらよろしく願います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1872y/>

モンスターハンター～明日への絆～

2011年11月4日10時23分発行